



Better Health, Brighter Future



Corporate Profile 2016
Creating value for patients around the world

武田薬品工業株式会社

Who We Are

タケダについて

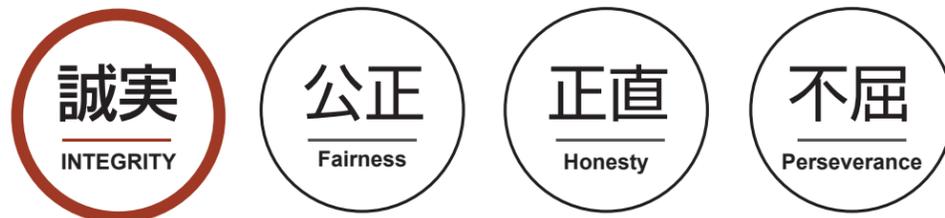
235年の歴史を持つタケダは、常に**患者さんを中心**に考え、イノベーション創出に立脚したグローバル製薬企業として、世界中の人々により健やかで輝かしい未来をお届けすることを目指しています。



Mission 優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と
ミッション 医療の未来に貢献する

Values タケダイズム、それはタケダが創業時から大切に守ってきた価値観のうえに培った、経営の基本精神。この揺るぎない基本精神が、タケダで働く一人ひとりの**ビジョン2025**実現に向けた取り組みを支えています。

私たちの経営の基本精神である「タケダイズム」は、いかなる場面においても誠実を旨として事業を営むという私たちの揺るぎない価値観であり、あらゆる業務において最も優先されるものです。タケダイズムに則り、私たちは高い倫理感を持ち、公正かつ正直に業務を遂行し、不屈の精神でビジョンの実現に取り組んでいます。



私たちは、4つの重要事項について、その優先順位に従って考え、行動や判断の基準とします。

- 1 常に患者さんを中心に考えます
- 2 社会との信頼関係を築きます
- 3 レピュテーションを向上させます
- 4 事業を発展させます

表紙の写真について：
ドン・クレイトンさん — 2008年に多発性骨髄腫と診断された患者さん。家具メーカーの副社長を定年退職。サッカーファンであり、マンチェスター・ユナイテッドの熱心なサポーター。

Vision 2025

ビジョン2025

タケダは、世界中のあらゆる人々のニーズに貢献しています。タケダイズムを通じ、社会やタケダの医薬品を必要とする方々からの信頼を得ています。機動性とイノベーション、さらに高い品質に支えられ、強固なパイプラインのもと成長し続けるベスト・イン・クラスの製薬企業として認められています。

Our Strategic Roadmap

戦略ロードマップ

ビジョンを実現するためのステップは、タケダの戦略の中に示されています。タケダは、「**Values** (バリュー)」「**People** (世界中の人々・仲間)」「**R&D** (研究開発への挑戦)」「**Business Performance** (事業の持続的成長)」にフォーカスし、ビジョン2025の実現に取り組みます。

タケダの「Corporate Profile 2016」はタケダの戦略ロードマップに沿って章が構成されています。戦略ロードマップの各要素の進捗状況を章ごとに記載しています。



Values バリュー

タケダについて	2
タケダの歴史	5
クリストフ・ウェバー社長CEOメッセージ	9
患者さんを中心に考える：オンコロジー（がん）領域のリーダーを目指して	11
患者さんを中心に考える：消化器系疾患（GI）領域におけるイノベーションに挑む	12
世界中の保健医療アクセス向上に貢献する	14



People 世界中の人々・仲間

患者さんに新たな価値をお届けする	16
人材育成への取り組み	18
ダイバーシティ&インクルージョンの推進	20



R&D 研究開発への挑戦

フォーカスを絞った世界レベルの研究開発	22
京都大学iPS細胞研究所とのパートナーシップ	24



Business Performance 事業の持続的成長

2015年度業績概況	26
持続可能な開発目標	28

1781

OUR HERITAGE

タケダの伝統

2025+

OUR FUTURE

タケダの未来

Our History タケダの歴史

優れた医薬品の創出を通じて患者さんのニーズに貢献する

普遍の価値観

1781年に初代近江屋長兵衛が日本の薬種取引の地として知られていた大阪・道修町で和漢薬の商いを始めて以降、誠実さや高品質の薬・サービスの提供で評判を得てきました。誠実さはやがてタケダの普遍的な経営の基本方針の核として深く根付き、今日に継承されています。



- 1781年: 創業**
初代近江屋長兵衛が大阪・道修町で薬種仲買商を始め、高品質の薬を提供
- 1871年**
洋薬（西洋医薬品）の輸入を開始
- 1895年**
自社工場で製薬事業を開始
- 1914年**
研究活動を開始
- 1933年**
「京都薬用植物園」を開設し、世界各地の薬用・有用植物を収集・活用
- 1940年**
タケダイズムの礎となる「規」を制定
- 1950年**
日本初の総合ビタミン剤「パンビタン」を発売
- 1954年**
ビタミンB1誘導体「アリナミン」を発売
- 1960年**
優秀な学生を支援し将来の社会に貢献できるよう、育英事業を目的とする「尚志社」を設立
- 1962年**
海外市場に進出
- 1963年**
有望な研究および科学技術の助成振興のため「武田科学振興財団」を設立
- 1980～90年代**
4つの国際戦略製品（「リュープロレリン」、 「ランソプラゾール」、 「カンデサルタン」、 「ビオグリタゾン」）によりグローバル事業拡大が加速
- 2008年**
バイオ医薬品会社のミレニアム社を買収し、がん領域を強化
- 2009年**
「国連グローバルコンパクト」に参加し、2011年には「LEADプログラム」へ参加
- 2010年**
アフリカの保健医療人材の育成を支援する「タケダ・イニシアティブ」を開始
- 2011年**
新興国に強い販路を持つナイコメッド社を統合し、事業基盤が70か国以上に拡大
- 2014年**
潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「エンティピオ」を欧州・米国で発売
- 2015年**
CIRA*との共同研究プログラムT-CIRAを開始し、iPS細胞技術の臨床応用を目指す
- 2015年**
多発性骨髄腫治療剤「ニシラーロ」を米国で発売
- 2016年**
研究開発の重点疾患領域を絞り込み、最先端のイノベーション創出を目指す
- 2016年**
日本においてテバ社との合弁会社に特許期間を満了した医薬品を承継し、革新的な新薬に集中する
- 2016年**
タケダの目指す姿「ビジョン2025」を制定

くすりの町、道修町

創始者の武田長兵衛は、薬商の中心地だった大阪・道修町の薬種仲買商・近江屋に奉公した後に近江屋喜助家からのれん分けを許され、薬種仲買商として別家、独立創業しました。当時の道修町には薬種仲買商の他、問屋、小売り、仲買人といった薬種商が軒を揃えていました。道修町は、現在でも製薬会社が立ち並ぶ「くすりの町」として知られています。

京都薬用植物園における生物多様性保全への取り組み

京都薬用植物園は、80年以上にわたって、世界各地から薬用・有用植物を収集・活用してきました。現在、約2,800種の植物を保有しており、うち2,214種が薬用植物です。絶滅危惧種は、準絶滅危惧種を含む127種を保有しており、150種の保全を目指して収集を続けています。

「規(のり)」

五代目長兵衛が制定した社は「規」は、初代長兵衛の時代から受け継がれてきた商業倫理、人道主義を引き継ぎ、近代社会の製薬企業の発展に求められる経営理念として明文化したものです。

1. 公に向かい国に奉ずるを第一義とすること
2. 相和き力を合わせ、共に逆らわざること
3. 深く研鑽に努め、その業に倦まざること
4. 質実を尊び、虚飾を慎むこと
5. 礼節を守り謙虚を持すること

日本の老舗から世界のタケダへ

日本国内で製薬トップブランドとしての地位を堅固にしたタケダは、海外への事業拡大、創業研究により一層力を入れました。1980～90年代に発売された4つの製品、前立腺がん・乳がん治療剤「リュープロレリン」、消化性潰瘍治療剤「ランソプラゾール」、高血圧症治療剤「カンデサルタン」、2型糖尿病治療剤「ビオグリタゾン」は、世界中の多くの患者さんに届けられました。この4つのグローバル製品により、タケダは海外市場の基盤を確立していきました。

世界のがん撲滅に向けて

オンコロジー（がん）領域において卓越した知識・技術・経験を有するミレニアム社の統合は、アンメットメディカルニーズの大きいがん領域での貢献を目指すタケダにとって大きな推進力となりました。ミレニアム社は、オンコロジー（がん）領域だけでなく炎症性疾患領域においても有望なパイプラインを有しており、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「エンティピオ」や多発性骨髄腫治療剤「ニシラーロ」はミレニアム社が創製したものです。

多様な価値観と相通じる企業文化の融合

ナイコメッド社の統合により、日本と米国に過度に依存していたタケダの地域別売上ポートフォリオは、日本、米国、欧州、新興国のバランスがとれ、安定的な事業展開が可能となりました。また、4つの地域における従業員比率もほぼ均等になり、ダイバーシティの推進が実現されました。一方で、ナイコメッド社の従業員に根づいている、チャレンジ精神あふれる「Can do」の企業文化は、誠実・公正・正直・不屈のタケダイズムに通じています。多様な価値観と両社の企業文化の融合により、タケダは一層のグローバル化を進めることになりました。

長期収載品（特許期間を満了した医薬品）に依存したビジネスモデルからの脱却

日本におけるジェネリック医薬品に対する患者さんのニーズおよび医療費抑制といった社会的要請の高まりに対応するため、タケダは、事業モデルの転換に機動的に取り組んでいます。特許期間満了後の医薬品が急速にジェネリック医薬品に置き換わる市場環境の中、テバ社のジェネリック医薬品とタケダの特許期間を満了した医薬品を扱う合弁会社を設立しました。合弁会社を通じて高品質な医薬品を適切な価格で提供する一方で、タケダはより一層革新的新薬の創出やデータ構築、情報提供・収集に力を注いでいます。タケダは、常に化する患者さんのニーズや市場環境を的確にとらえ、ユニークなソリューションを提供するとともに、医療のイノベーションをリードする取り組みを一層強化します。

Vision2025: タケダのありたい姿

タケダは、世界中のあらゆる人々のニーズに貢献しています。タケダイズムを通じ、社会やタケダの医薬品を必要とする方々からの信頼を得ています。機動性とイノベーション、さらに高い品質に支えられ、強固なパイプラインのもと成長し続けるベスト・イン・クラスの製薬企業として認められています。

*2010年に国立大学法人京都大学内に設立された、世界初のiPS細胞に特化した研究機関。

「タケダはこれからも、
世界中の患者さんのニーズに貢献する、
機動的でイノベティブな
創薬のグローバルリーダーを目指します。」



Message from **Christophe Weber**, President & CEO

クリストフ・ウェバー社長CEOメッセージ

「患者さんのために、これまで以上に何ができるか？」

タケダでは、全てがこの問いかけから始まります。

タケダの創業者である初代近江屋長兵衛は、病に苦しむ患者さんに何ができるか昼夜問わずに考え、事業を誠実に営むことを信念としていました。患者さんを中心に考えるという創業者の精神は、タケダの経営の原点として世代を超えて脈々と受け継がれ、創業235年を迎えた今日も、世界70カ国以上のタケダグループ全体の基本精神として根付いています。

タケダの長い歴史は、タケダイズム(誠実:公正・正直・不屈)という価値観を事業活動の根幹に据えて守り抜き、イノベーションに挑戦し続けてきたことによって築かれたものです。私ならびにタケダのリーダーシップチームの使命は、タケダが将来にわたって世界中の患者さんのニーズに貢献し続けるよう、常に患者さんを中心に考えながら未来への確かな道筋を描き、着実に戦略を実行し、変革をリードすることだと考えています。私たちはこのたび、タケダが目指すべき未来の姿を「ビジョン2025」として明確に打ち出し、その実現に向けた具体的なステップを「戦略ロードマップ」に展開しました。

ビジョン2025では、「消化器系疾患(GI)領域でのNo.1、オンコロジー(がん)におけるトップ10、中枢神経系疾患(CNS)領域および新興国事業での強固なプレゼンス」を長期的な事業の目標とし、これまで以上に患者さんに貢献していくことを目指します。タケダは既に、戦略ロードマップの実行を通じたビジョン実現への歩みを着実に進めています。

戦略ロードマップの4つの柱である「Values(バリュー)」、「People(世界中の人々・仲間)」、「R&D(研究開発への挑戦)」、「Business Performance(事業の持続的成長)」に沿って示した、2015年度の主な成果と2016年度のフォーカスは次の通りです。

Values(バリュー):タケダが進出する全ての国・地域において、コンプライアンス・モニタリング・ポリシーを確立しました。世界の保健医療向上にフォーカスした企業の社会的責任(CSR)施策、ならびに医療システムが発達していない地域を含む世界中にタケダの革新的な医薬品をお届けできるようにする、医薬品へのアクセス向上(Access to Medicine)施策の戦略を立案しました。引き続き、全ての進出国でコンプライアンス遵守を強化するとともに、グローバルな企業市民としての責任を果たしていきます。

People(世界中の人々・仲間):人材育成およびダイバーシティのさらなる推進に向け、3つの新しい人材開発プログラムを開始しました。引き続き、次世代のリーダー人材の育成や、全社における多様性推進に関する取り組みを強化していきます。

R&D(研究開発への挑戦):「オンコロジー(がん)」、「消化器系疾患(GI)」、「中枢神経系疾患(CNS)」の3つの疾患領域そして「ワクチン」を重点領域とし、これらの重点領域にR&D投資を集中することを明確にしました。ノーベル賞受賞者である山中伸弥教授が率いる京都大学iPS細胞研究所との共同研究を開始し、7つの研究プログラムを実施中です。2015年度は、さらに6つの外部パートナーとの共同研究を開始しました。今後は、より強靱で機動的かつ外部連携を強化した研究開発組織の構築に向けて変革を加速し、重点領域における革新的な医薬品の創出を目指します。

Business Performance(事業の持続的成長):2015年度は持続的成長への転換点となり、年間マネジメントガイダンスを2年連続で達成しました。「エンティビオ」「ニルラーロ」のグローバル製品や、日本の「タケキャブ」「アジルバ」、および米国の「トリンテリックス」等をはじめとした新製品の力強い業績伸長がタケダの成長を牽引し、成長ドライバーと位置付ける「消化器系疾患(GI)」、「オンコロジー(がん)」、「中枢神経系疾患(CNS)」、「新興国事業」において、対前年+9.5%の実質的な成長を達成しました。売上収益では、+3.4%、コア・アーニングスでは+8.1%、そしてコアEPSでは+21.7%それぞれ実質的な成長を達成しました。

タケダは、2016年度も変革を継続し、不断の戦略ロードマップ実行によりビジョンの実現と持続的成長に向けた歩みを進めていきます。私たちは1781年の創業以来培われてきた礎を胸に、ベスト・イン・クラスの創薬のグローバルリーダーとなることを目指し、「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」というミッションの実現を果たしていきます。

クリストフ・ウェバー
代表取締役 社長CEO

「妻のリンダとともにこの新しい人生の
日々を、楽しみながら歩んでいきたいと
思います。」

ドン・クレイトンさん
多発性骨髄腫患者。家具メーカーの副社長を定年退職。
サッカーファンであり、マンチェスター・ユナイテッドの熱心
なサポーター。

多発性骨髄腫治療剤「ニンラーロ」*
(イキサゾミブ)の現状
(2016年6月現在)

1,400人以上

同剤で治療を受けた米国の患者さんの人数

80以上

実施中あるいは承認済の臨床試験の数
今後5年以内に7,000人以上の患者さんが
臨床試験に参加予定



Patient-first: Leadership in Oncology

患者さんを中心に考える:オンコロジー(がん)領域のリーダーを目指して

がん患者さんの明るい未来のために

ドン・クレイトンさんは、56歳の誕生日の前日、多発性骨髄腫と診断
されました。人生に対して前向きなドンさんは、妻のリンダさんとと
もに、この病気と闘おうと決心しました。幹細胞移植で部分奏効がみら
れましたが、二人が望んでいた完全寛解には至りませんでした。**

タケダのオンコロジー(がん)領域におけるミッション:世界中のがん
患者さんとそのご家族、そして患者さんを支えている医療関係者の
方々の、多様かつ緊急な治療ニーズにお応えする革新的な新薬をお
届けし、がんを治せる病気にする。

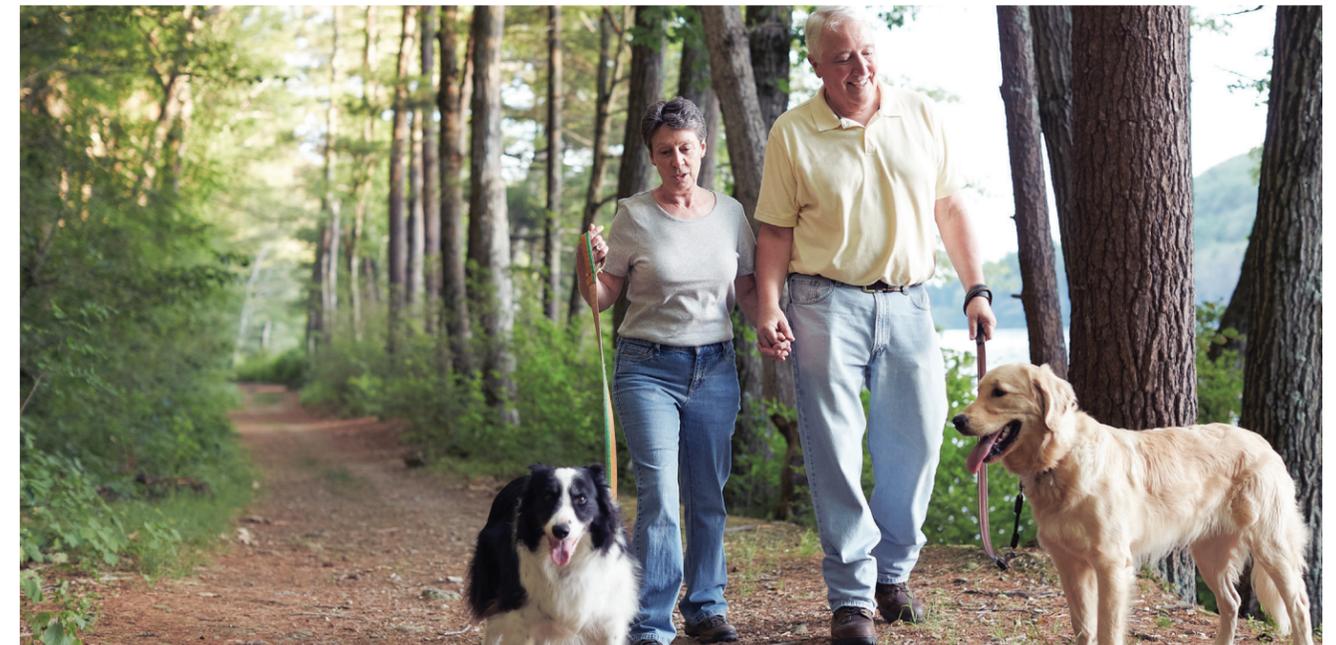
タケダは、当社が創出した「ニンラーロ」(イキサゾミブ)が、世界中
の多発性骨髄腫の患者さんの治療に大きな貢献を果たし、タケダの
ミッションを体現するような製品となり得ると考えています。初めての
経口プロテアソーム阻害剤で、何十年にもわたって築かれた多発
性骨髄腫に関する科学と研究の成果が「ニンラーロ」に生かされて
います。米国食品医薬品局の承認後、世界14カ国で「ニンラーロ」
の承認申請をしています(2016年6月現在)。また、欧州医薬品庁
(EMA)の欧州医薬品評価委員会(CHMP)より、「ニンラーロ」の承
認を推奨しないという否定的見解が2016年5月に示されましたが、
この見解を不服とし、CHMPにおける再審査を要請しました。このプ
ロセスには6ヵ月を要すると予想しています。



タケダは2016年1月に、多発性骨髄腫研究基金およびCURE Media
Groupとともに、同疾患の啓蒙活動と研究資金調達のためのプログラム
「Moving Mountains for Multiple Myeloma(山をも動かすような
強い気持ちで多発性骨髄腫の治療に貢献する、の意)」を発足させました。
発足を記念して、患者さん、医療関係者の方々、支援者として参画した
タケダ従業員を含む計15名が11日間をかけてアフリカ・タンザニアにあ
るキリマンジャロ山頂のウフル・ピークを目指し、見事登頂を果たしました。

「多発性骨髄腫と闘い続けている患者さん、そのご家族、
医療関係者の方々の存在が日々の原動力となり、私たち
タケダの従業員は、『がんを治せる病気にする』という目
標に挑み続けています。」

ライアン・コレップ
タケダ オンコロジービジネスユニット 米国マーケティング部門
バイスプレジデント — 登山プログラムの参加者



**ドンさんの体験は、必ずしも典型的な患者さんの事例を示すものではありません。

*「ニンラーロ」(イキサゾミブ)は、米国のみで承認されています。(2016年6月現在)

Patient-first: Innovation in Gastroenterology

患者さんを中心に考える: 消化器系疾患 (GI) 領域におけるイノベーションに挑む

患者さんのより健やかな明日のために、 消化器系疾患 (GI) のイノベーションに挑み続けます。

元ダンサーかつ体操選手でもあったジャスティン・ゲイルさんは、サイクリングと水泳が大好きです。ラジオやテレビの司会者の仕事をしているため、出張も頻繁にあります。ジャスティンさんは過去に3度、症状が異なる、診断が確定しない腸の異常を経験しました。最初に症状が現れてから約30年後の2014年、米国カリフォルニア州のロサンゼルスで勤務していたジャスティンさんは、救急病院で治療を受けた際、クローン病と診断されました。

ジャスティンさんのような患者さんに、一日も早く革新的な医薬品をお届けしたい—その想いこそがタケダの原動力です。潰瘍性大腸炎やクローン病は、つらい消耗性の疾患です。痛みや不快感、そして病気の進行が予測できないことが、自分らしく毎日を過ごす時間を奪い、仕事への影響や、家族への負担を増やしてしまいます。

適切な治療薬があれば、そのような患者さんの状況を変えることも可能になります。だからこそ、タケダは、「患者さんを中心に考えたイノベーション」に挑み続けます。

タケダは2014年に、腸管に選択的に作用する唯一の生物学的製剤で、中等度から重度の活動期潰瘍性大腸炎およびクローン病治療剤である「エンティビオ」(ベドリズマブ)をグローバル*で上市しました。革新的な新薬「エンティビオ」は、タケダの炎症性腸疾患 (IBD) についての臨床的な理解を大きく進展させており、かつ、2016年のタケダにおける最大のグローバル製品となるものです。「エンティビオ」を通じて、新薬を待ち望まれている世界中の患者さんにさらなる貢献を果たしていきます。



*「エンティビオ」(ベドリズマブ)は、日本では承認されていません。(2016年6月現在)

25年にわたるタケダの消化器系疾患 (GI) 領域でのリーダーシップ
タケダは消化器系疾患 (GI) の患者さんの健康と生活の向上に貢献するリーディングカンパニーです。消化器系疾患 (GI) 治療剤のファースト・イン・クラスやベスト・イン・クラスの治療薬を25年以上提供しており、さらなるイノベーションによる進化と、持続的な貢献を目指しています。当社が有する専門性の高い疾患領域の医薬品ポートフォリオの筆頭でもある「エンティビオ」を、より多くの国・地域の患者さんのもとへお届けしていきます。タケダは現在、消化器系疾患 (GI) 領域において、専門的かつ戦略的な自社開発、外部機関との提携、導入・アライアンスに取り組んでおり、有望な初期パイプラインを数多く有しています。

「毎日の仕事、そして生活のあらゆる面で、自信に満ちた日々を取り戻しました。」

ジャスティン・ゲイルさん
TV・ラジオ パーソナリティ

潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤
「エンティビオ」(ベドリズマブ)の
主要マイルストーン
(2016年6月現在)

40,000人

2014年6月以降、米国・欧州で約4万人の患者さんが「エンティビオ」を使用

50カ国

50カ国の規制当局が承認



「私は約30年にわたり、潰瘍性大腸炎やクローン病をはじめとした、炎症性腸疾患 (IBD) の患者さんの治療に取り組んできました。作用機序の異なる新しい治療選択肢が創出されることにより、それぞれの患者さんにより合った治療を選択できるようになります。新薬の貢献により、手術による治療をしなければならない患者さんが一人でも少なくなることを願っています。」

フラビオ・シュタインビュルツ医師**
医学博士、米国消化器学会フェロー ブラジル、サンパウロ市
Albert Einstein and Alemão Oswaldo Cruz病院
ブラジル潰瘍性大腸炎・クローン病協会の創始者

**シュタインビュルツ博士は、武田ブラジル社のアドバイザーとして、ブラジルで実施するタケダの臨床試験プログラム開発に専門的知見を提供しています。

世界の3人に1人の患者さんに、必要な医薬品が届いていないともいわれています。先進国においても、医薬品が届いていないことや、高額な治療費が課題となっています。だからこそタケダは、創薬だけに留まらない、より幅広い医薬品アクセスの向上に貢献することを目指しています。

医薬品アクセス (Access to Medicine, AtM) の向上を目指してタケダは医薬品アクセスの向上を通じたグローバルヘルスへの貢献に取り組んでおり、新たに「Access to Medicines (AtM)」戦略を策定しました。医療制度の整備が不十分な国において、タケダの医薬品を処方された全ての患者さんに対して、治療費の支払い能力にかかわらず、革新的な医薬品を提供するための仕組みづくりに本格的に取り組めます。具体的には、タケダの重点疾患領域でもある、オンコロジー(がん)/血液疾患、炎症性腸疾患 (IBD) およびワクチン領域を主な対象として、アクセス改善に向けた革新的かつ持続可能なアプローチにより、アンメットメディカルニーズが最も高い地域の患者さんに対して貢献していきます。



タケダのAtM戦略は、薬剤費への支援に留まらず、医薬品アクセスを妨げるさまざまな課題の解決に包括的に取り組むことを目指しています。研究開発、医療全般に関わるインフラ強化の支援、企業市民活動などを通じて、医薬品の供給だけに留まらないより幅広い課題の解決に貢献していきます。また、サハラ以南のアフリカ地域においては、医薬品アクセス向上への取り組みに利益を再投資する事業モデルを構築し、スペシャリティケア、および代謝性・循環器系疾患のプライマリケア医薬品の領域における、基本的な治療へのアクセス向上に取り組んでいきます。

タケダのAtM戦略は、全ての事業活動の中心である患者さんに最大の効果をもたらされることを目指しており、経営陣の主導のもと、推進されています。組織横断的な推進メンバーによりAtM委員会を構成し、グローバルな運営体制のもとで、戦略の推進ならびに必要なリソース配分を行っています。また、タケダ・エグゼクティブ・チームのメンバーを含むAtMフォーラムにおいて、タケダのAtM戦略にかかる重要な事項の協議および意思決定を行うとともに、外部のグローバルヘルスの専門家によるアドバイザリーボードを定期的に招聘しています。

「タケダのAtM戦略は、『患者さん中心』という考え方ならびにタケダイズムに基づき、『公正』さと持続可能性の実現を目指すものです。」

ジャイルズ・プラットフォーム
エマージング マーケッツ ビジネスユニット プレジデント

Corporate Social Responsibility

タケダは保健医療環境が整えられていない地域や、十分な治療が届けられていない疾患領域において、外部機関と連携し、弱い立場にある人々の健康の改善と、生活環境の向上を図るCSRプログラムを展開しています。タケダでは目標として掲げている「途上国・新興国の人々の健康に貢献する予防活動」を最も具現化できるプログラムを選ぶために、国内外の全従業員を対象とした投票を行い、下記のプログラムの実施を決定しました。

「はしか」予防接種のグローバル展開プログラム：国連財団と協働し、アフリカ、アジア、ラテンアメリカなど約40カ国で実施します。10年間で540万人の子どもたちに「はしか」のワクチンを接種する計画です。

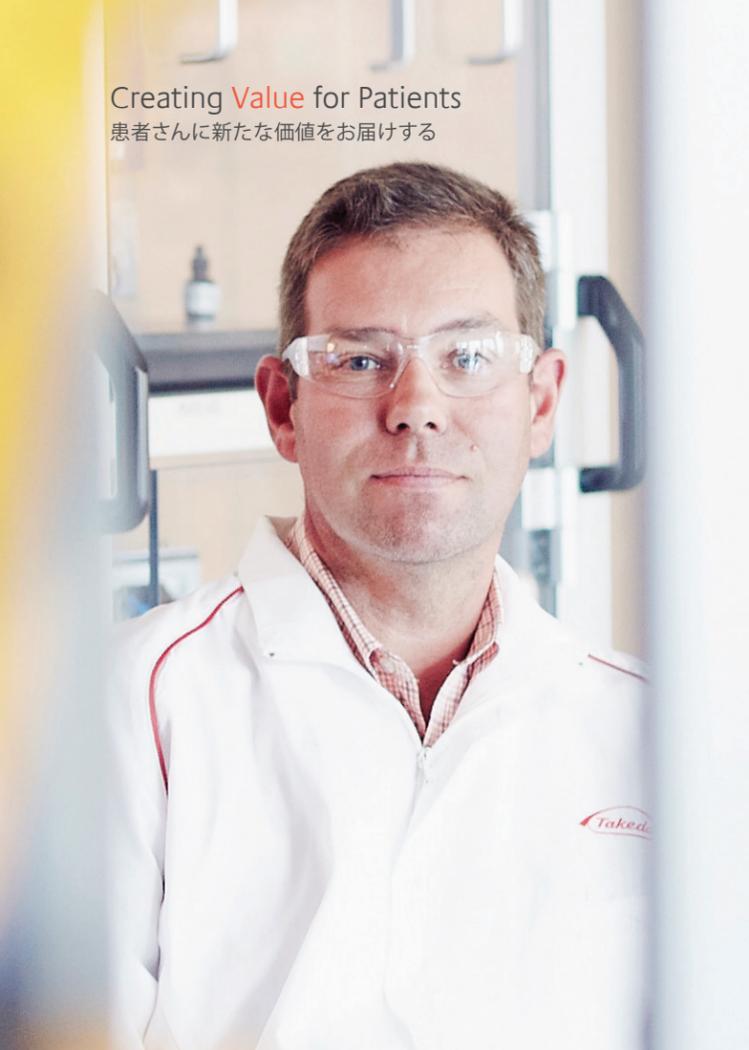
地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム：ワールド・ビジョンと協働し、インド、バングラデシュ、ネパール、アフガニスタンで実施します。5年間で1,400人の地域医療従事者の能力を強化し、約50万人に保健医療に関する知識とサービスを提供することで、母子の「予防可能な死」を削減します。



少数民族の母子を対象にした保健支援プログラム：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと協働し、ミャンマー、ベトナム、ラオスで実施します。アジア少数民族の保健医療のアクセスとクオリティを向上するため、関係保健当局と連携しながら5年間で4万人の少数民族の母子を含む15万人の地域住民へ保健教育、研修、サービスを提供します。

これらに加え、プラン・インターナショナル・ジャパンと協働でケニア政府が推進する「デジタル出生登録プログラム」を3年間にわたって支援します。このプログラムは、子どもたちの人権を守り、保健医療や教育を受ける機会を広げる重要な取り組みとなります。





「ミレニアム社に入社してから一貫して研究職を続けています。その中で、私は、タケダが大きく成長していることを実感してきました。人材、組織力、そして数年前では考えられなかったような問題を解決する力などです。私は、生物学、化学、工学、およびITといった複数の分野が重なり合う領域で、革新的かつ実用的なソリューションの構築に取り組んでいます。命に関わる病気と闘う患者さんに新しい治療選択肢を提供するため、創業に取り組むタケダの研究者チームの一員であることを大変誇りに思っています。」

ベン・ナイト
シニアサイエンティスト II 創薬技術
米国

「ブラジルでは、医師と医療関係者が連携して患者さんのケアに取り組んでいます。効果のある治療法が見つからなかった患者さんに対して、新たな選択肢を提供できることに、本当にやりがいを感じています。炎症性腸疾患 (IBD) の患者さんは生活するだけでも大変で、時には身体的痛みが伴うこともあります。患者さんの症状を改善したり、手術を回避できるように努めることは、とても重要な仕事だと思います。」

ワン・リー・ピーニョ
ブラジル & ラテンアメリカ サイエンティフィック アフェアーズ ヘッド
ブラジル

「私の仕事は、患者さんに高品質で安全な医薬品をお届けすることです。タケダには、新しいアイデアや、問題を迅速かつ効率的に解決するための改善策を全ての従業員が提案できるプログラムがあります。私は入社して10ヵ月ですが、このプログラムが、私たちが日々直面する課題の解決に役立っていることを実感しています。ここドイツのオラニエンブルクでは、世界中の工場の従業員と密に連絡を取り、知識を共有しながら、各工場のコア・コンピテンシーの継続的向上に努めています。」

ジャン・ヘンドリック・エルトマン
トランスナショナル ネットワーク マネージャー
ドイツ

「日々の業務では、一人ひとりの患者さんとそのご家族を常に中心において意思決定するよう心がけています。メンバーにも、迷った時には『それは患者さんのためになるのか』と自らに問い、行動するように伝えていきます。そうすることで、優れたタケダMRとして成長していけると確信しています。メンバーの成長する姿を見るのが一番の喜びであり、私のやりがいです。メンバー全員が日々笑顔で仕事に取り組み、成長していける組織を作ること、それが所長としての私の役目だと考えています。」

矢澤 亜紀
JPBU湘南営業所長
日本

一人ひとりの成長が、 強い組織を創りあげる

タケダでは、医薬品を通じて人々の人生に貢献するという同じ目標のもと、仲間とともに切磋琢磨する機会に溢れた職場環境を提供しています。タケダの医薬品を待ち望んでおられる患者さん、そしてそのご家族はもとより、医薬品を創出する従業員に対しても常に誠実に向き合うことで、誠実を旨とするタケダの企業理念を徹底して実践しています。世界中の多様な専門性・文化的背景を持つ従業員一人ひとりの力をあわせ、強い組織を創りあげています。

タケダが患者さんの健康にさらなる貢献を果たす企業となるには、人材育成への継続的取り組みが欠かせません。一人ひとりのスキル・知識をさらに高める人材育成プログラムを立ち上げ、未来のタケダと製薬業界を牽引するリーダーの育成に注力しています。

人材開発の取り組み

タケダのグローバルな人材育成プログラム

- ・プレジデント・フォーラム 次世代リーダーの育成を目的に、社長をはじめとした経営幹部との討論や一对一のコーチングを通じて学ぶリーダー研修（2015年～）
- ・アクセラレーター・プログラム 高いポテンシャルを持つ従業員を選出し、国際経験や部門横断的な業務経験を積みながら、早期からのキャリア形成を加速（2016年～）
- ・タケダ・リーダーシップ・プログラム 各部門のリーダーを集めた人材育成研修。活発な議論、ビジネスシミュレーション、外部講師やゲストスピーカーとの討論などを通じ、リーダーシップ能力を強化（2016年～）
- ・グローバル・インダクション・フォーラム 新たに入社したシニア・リーダー（上級幹部社員）が、社内ネットワークを広げながら、タケダの経営幹部から直接タケダの経営理念・歴史・事業の方向性等を学ぶ研修プログラム（2015年～）

タケダの主要人材育成プログラム・育成フォーカス

育成対象	人材育成プログラム	育成フォーカス
経営幹部	プレジデント・フォーラム	タケダ・リーダーシップ・ビヘビア
幹部候補の中堅社員	タケダ・リーダーシップ・プログラム	
	グローバル・インダクション・フォーラム	
ハイポテンシャルの若手社員	アクセラレーター	グローバル・コア・コンピテンシー
現場マネージャー／担当者	部門・機能・地域ごとの育成プログラム	



これらグローバルな育成プログラムに加え、部門・機能の業務ニーズに合った独自のリーダーシップ・アカデミーや人材育成プログラムを多数展開・実施しています。

リーダーシップ・ビヘビア（行動規範）

タケダの変革を次なるステージへと推し進めるには、一人ひとりが期待される業績、行動、会社の戦略について理解することが重要です。2015年度、タケダの今、そして未来に向けて事業を牽引するリーダーに求められる4つの要素を定義付けました。

- ・患者さんへの貢献、社会との信頼関係構築、レピュテーションの向上、ビジネスの発展を実現する革新的な方策を見出すため、会社全体を見渡す戦略的思考を実践する
- ・組織を成長させることに従業員がモチベーション高く取り組める環境を作る
- ・最も重要な優先事項を絞り込み、優れた成果を導き出す
- ・現在の、そして未来のために、組織の能力を向上させる

グローバル・コア・コンピテンシー

タケダのビジョンと長期的な成功の実現に欠かせない、従業員一人ひとりの育成を促すため、全従業員に共通の行動基準を策定しました。

多様な視点が繰り出す創意ある成果

タケダのダイバーシティ&インクルージョン(D&I)のステートメント:タケダは、私たちが貢献すべき患者さんが多様であると同様に、多様な従業員が活躍できるよう努めています。私たちは従業員の個々の違いを受け入れ、その可能性を探求し、育成することにコミットしています。私たちの成功は、従業員の個々の意見や才能を活かすために、従業員が受け入れられ、自信を持ち、活気にあふれる環境を作り出すことにかかっています。これが患者さんやタケダの医薬品を待ち望んでおられる医療関係者の皆さん、コミュニティに貢献するための革新的なアプローチを見つける方法だと信じています。これは、私たちが最高のポテンシャルを引き出す方法でもあります。

ダイバーシティ(多様性)が組織の創造力を高め、イノベーションをより多くもたらし、多様性に富んだリーダー層が率いる企業が幅広いグローバルな経営課題により効果的に対応できるといわれています。イノベーション主導の研究開発型グローバル企業であるタケダが、長期にわたりより健やかで明るい未来の実現に貢献するためにはダイバーシティの推進が極めて重要となります。

タケダは、従業員一人ひとりが性別、年齢、国籍、人種、セクシュアル・オリエンテーションに関わらず、それぞれの能力と熱意に応じた成長の機会を提供できる企業であることを目指しています。タケダイズム(誠実:公正・正直・不屈)に基づき、従業員の豊かな多様性がもたらすユニークな視点を活かし、世界中の患者さんにより一層貢献していきます。

タケダは、日本をはじめ他の国々においてもダイバーシティ&インクルージョンの取り組みを加速しており、性別、ワークスタイル、年齢、キャリアにおける多様性を促進しています。

- 女性従業員同士で学び合い、知識・情報を共有しながら、キャリア形成をサポートしあえるネットワーク「はなみずき」を始動(日本)
- フレキシブル・ワーク・スタイル・プログラムを導入し、就業時間や就業場所の選択肢をより幅広く設定し、従業員の働きやすさを向上(日本)
- 高いパフォーマンスを発揮する従業員の早期昇進を促すことでキャリアの多様化を促進(日本)
- 米国で第一回タケダダイバーシティ週間およびリーダーシップ・シンポジウムを開催。ダイバーシティ&インクルージョンを牽引するリーダーたちが集合し、基調講演やワークショップを実施(米国)



2016年度 日本の目標値

30%

新任幹部社員に占める女性の割合

10%

新任幹部社員に占める経験年数8年未満の従業員の割合



画期的な変化をもたらす研究

サイエンスと医薬品の飛躍的な進歩により、より高度なイノベーションが求められるようになりました。

タケダは、患者さんを中心に考える戦略、ワールドクラスの研究開発でニーズに応えていきます。

タケダは、業界トップの研究開発組織となることを目指しています。すなわち、考え、行動し、外部機関と連携する、他に類のないダイナミックな組織です。患者さんに真のイノベーションをもたらす治療に向けた最先端のサイエンスにフォーカスすることで、その目標を達成します。そのために、重点疾患領域での高度な専門性の構築、パイプラインの強化、互いを高め合える組織文化の醸成などに取り組んでいます。

「タケダは単なる『創薬』を超えて、さらに可能性を追求します。患者さんのより健やかな未来のために、イノベーションに挑み続けます。」

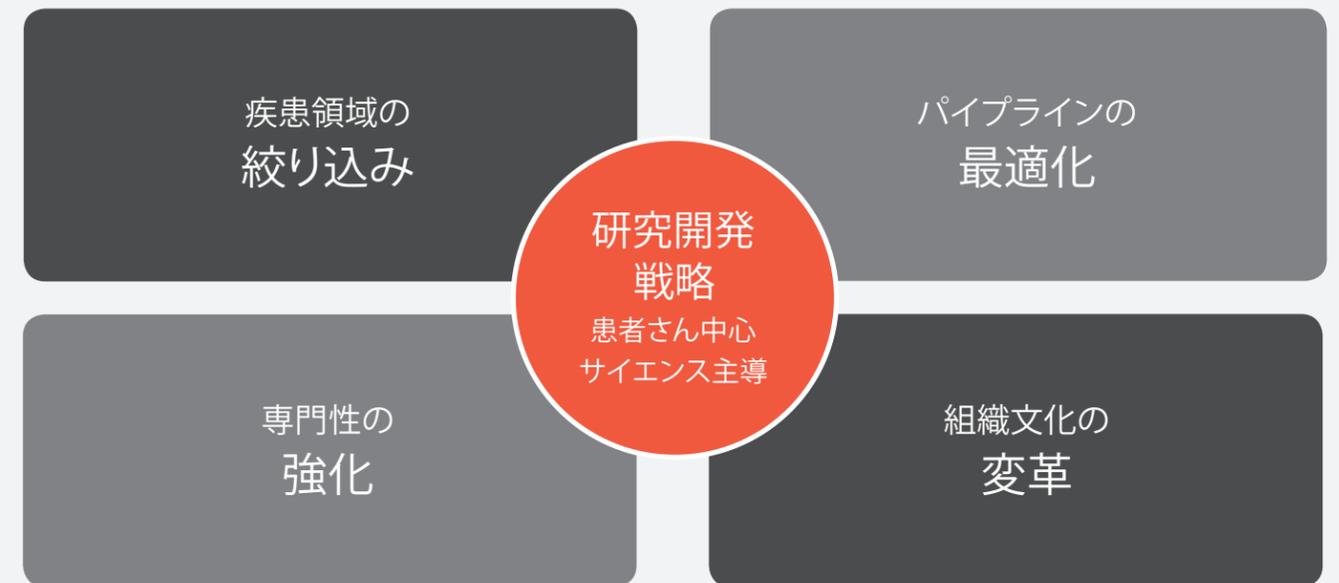
アンディ・プランプ
チーフ メディカル&サイエンティフィック オフィサー



重点疾患領域



タケダの研究開発戦略



イノベーションを最大化する取り組み:

- 疾患領域の絞り込み: オンコロジー(がん)、消化器系疾患(GI)、中枢神経系疾患(CNS)を重点疾患領域として、イノベーションの最先端を目指します。これらの領域は、患者さんのニーズが高く、タケダの高度な専門性とこれまでの実績に基づく経験で、革新的な新薬の創出に取り組んでいます。またワクチン領域では Dengue 熱やノロウイルスのプログラムを通じ、グローバルヘルスへの貢献を続けていきます。
- パイプラインの最適化: 患者さんに貢献するために、重点疾患領域を絞り込み、新たな開発品の導入などによりパイプラインの最適化を戦略的に実施しました。その結果、臨床第 I 相および第 II 相の有望な開発プログラムを強化し、既存パイプラインの加速化および革新的な外部機関とのパートナーシップによって臨床第 III 相パイプラインを再構築しています。また、重要な開発品としてタケダは Dengue 熱ワクチンを有しており、世界中の人々への大きな貢献が期待されています。

パイプラインの詳細は、タケダのホームページに掲載しています。
www.takeda.co.jp/research/pipeline

- 専門性の強化: 高分子や細胞治療などのモダリティ(手法)の多様化、ゲノム研究およびデータサイエンス、トランスレーショナルメディスンによって重点領域の専門性を強化しています。社内のワールドクラスの研究者と外部イノベーターとの連携による相乗効果を生み出すために、タケダの研究フォーカスと合致する外部の最先端企業・アカデミアとのコラボレーションやパートナーシップを通じ、イノベーション・ネットワークを拡大しています。タケダは、イノベーションの実現とパイプラインの強化に向けて、自社とパートナーとのコラボレーションを推し進め、患者さんに大きな成果をもたらす強固なパートナーシップに基づくダイナミックなイノベーション・ネットワークを構築しています。

- 組織文化の変革: リーダーシップ、機動性、パートナーとの緊密な連携、そして業界内部および外部環境のトレンドをつかむことによって、組織文化の変革を推進しています。リーダー育成に向けて起業家精神を育み、患者さんに最良の成果をもたらすために従業員の専門性を高めています。機会と責任を分かち合い、互いを高め合える組織文化を醸成しており、すばやく決断し完璧に実行できることがタケダの強みです。

Partnership with Kyoto University's Center for iPS Cell Research and Application

京都大学iPS細胞研究所とのパートナーシップ

タケダは、京都大学iPS細胞研究所(CiRA)とiPS細胞技術の臨床応用を目指して提携しています。

T-CiRAは2015年から10年間にわたる共同研究プログラムで、医療の未来に変革をもたらすことを目指しています。

タケダは、「京都大学iPS細胞研究所(CiRA)」*と、iPS細胞技術の臨床応用に向けた共同研究契約、「武田-サイラ共同プログラム(T-CiRA)」を締結しました。iPS細胞技術は医療の未来に画期的な変革をもたらす可能性があり、その応用は細胞治療、創薬研究、薬物安全性評価など多岐にわたります。

CiRAの先鋭的なサイエンスとタケダの研究開発の知見を統合することで、T-CiRAでは特にがん、心不全、神経変性疾患、1型糖尿病、難治性筋疾患などの深刻かつ生命に関わる領域を中心に、革新的な治療の選択肢を提供し、患者さんのアンメットメディカルニーズに応えることを目指します。

*2010年に国立大学法人京都大学内に設立された、世界初のiPS細胞に特化した研究機関。iPS細胞を用いた再生医療の実現と創薬研究を目指し、細胞のリプログラミング、ヒト発生、臨床応用および生命倫理についての基本科学研究を行っています。



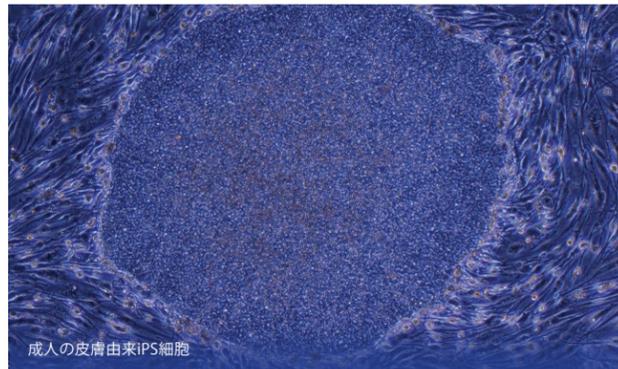
このプログラムはタケダの湘南研究所(藤沢市)を拠点とし、幹細胞研究でのノーベル賞受賞者である山中伸弥CiRA所長が主導しています。

現在進行中のプロジェクト:

- 細胞傷害性Tリンパ球療法を利用したがん免疫療法の開発
- 1型糖尿病に対する再生医療開発
- 心疾患創薬プラットフォームの開発と心不全の新規治療開発への応用研究
- 筋萎縮性側索硬化症(ALS)に対する創薬研究
- 難治性筋疾患に対する創薬研究
- 先天性筋疾患に対するゲノム編集遺伝子治療法開発
- ヒトiPS細胞由来神経堤細胞を用いた基盤研究と再生医療・創薬への応用研究

〈iPS細胞とは〉

人間の皮膚などの体細胞に、極少数の因子を導入し、培養することによって、様々な組織や臓器の細胞に分化する能力とほぼ無限に増殖する能力をもつ多能性幹細胞に変化します。この細胞を「人工多能性幹細胞」と呼びます。英語では、「induced pluripotent stem cell」と表記しますので頭文字をとって「iPS細胞」と呼ばれています。



成人の皮膚由来iPS細胞



「iPS細胞技術をツールとして用い、創薬および難治性疾患の画期的な治療法の創出に対する新たなアプローチの開発に向け、今後10年にわたり研究を実施します。」

山中伸弥教授
CiRA所長

「この重要な研究プログラムに参加できることは当社にとって誇りです。本共同研究により、当社は、疾患治療において細胞治療および遺伝子的戦略を追求する製薬企業へと変革することを目指します。」

クリストフ・ウェバー
武田薬品 代表取締役 社長CEO

タケダのバリューに基づくグローバルプレゼンスを構築

タケダは人々の健康と医療の未来に貢献する、機動的かつグローバルな製薬企業となることを目標に掲げています。世界中のパートナーとの関係強化および戦略的提携を通じ、より多くの国々にタケダ製品をお届けし、持続的な成長の実現を目指しています。

新興国 +4.8%*

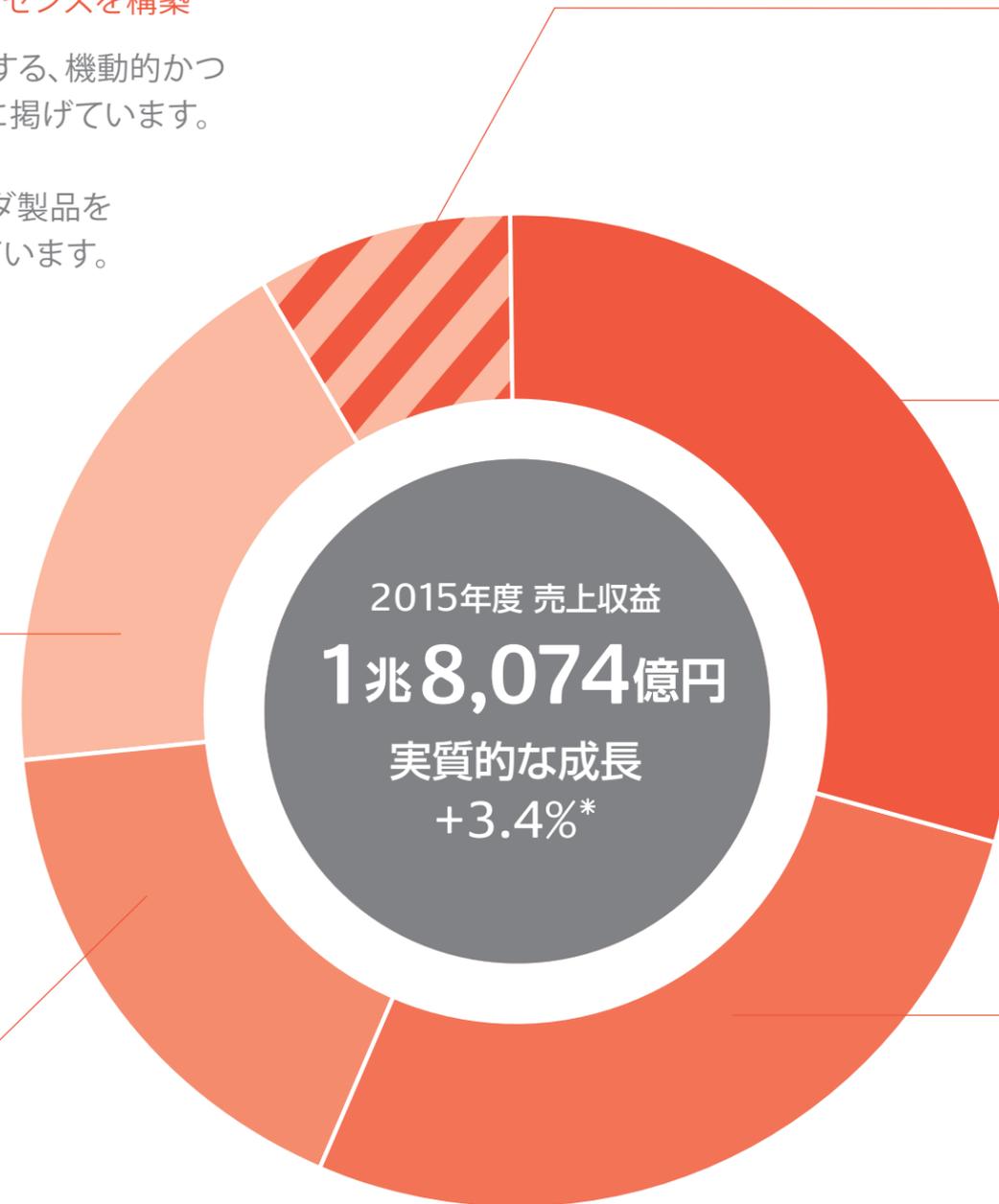
35カ国を超える新興国市場において、消化器系疾患、オンコロジーおよび糖尿病におけるバリューブランドや革新的な新薬を提供していくとともに、その他国々への新規進出、アンメットニーズへの対応にむけた提携も検討しています。また、「タケダイズム」の実践ならびに徹底したコンプライアンスの浸透を図ることで、患者さん、医療関係者ならびに従業員からこの市場におけるベスト・イン・クラスの企業と評価され、トップ10製薬企業となることを目指します。

欧州・カナダ -0.3%*

EUCAN（ヨーロッパとカナダ）ビジネスユニットでは、機動的な組織ならびにスペシャリティケア事業への転換を加速させるとともに、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「エンティピオ」をバイオロジクスにおける第1選択薬とする戦略やコスト管理の徹底、成熟製品の効率的な管理を通じた成長を引き続き目指します。また、多発性骨髄腫治療剤「ニンラー口」の発売に向けて万全の体制を整えていきます。

* 2015年度における、前年度比の実質的な成長率（為替影響および一時的要因を控除した実質ベースの成長率）

** 「トリンテリックス」は2016年6月より米国における製品名を「プリンテリックス」より変更して販売しています。 § 「その他」には、知的財産権収益を含みます。



日本ヘルスケア（一般用医薬品）およびその他[§] +5.5%*

日本を中心としたアジア地域におけるコンシューマーヘルスケア市場においてリーディングカンパニーを目指し、ジャパン コンシューマーヘルスケア ビジネス ユニット事業の分社化に向けて、100%子会社「武田コンシューマーヘルスケア株式会社」を2016年4月に設立しました。新会社は、より機動的なビジネスモデルを構築し、当該市場における環境変化に迅速に対処していきます。新会社は、2017年4月から営業を開始する予定です。

日本（医療用医薬品） -3.3%*

ジャパン ファーマ ビジネスユニットでは、2016-2018年度において、高血圧症治療剤「アジルバ」ファミリー、2型糖尿病治療剤DPP-4ファミリー、高脂血症治療剤「ロトリガ」および酸関連疾患治療剤「タケキャブ」ファミリーの4つに集中し、引き続き日本の製薬業界を牽引していきます。長期的には、「エンティピオ」、大うつ病治療薬「トリンテリックス」**、パーキンソン病治療薬「ラサギリン」などスペシャリティ分野における製品の日本での上市が見込まれており、患者さんおよび医療関係者にさらなる価値を提供していきます。

また、幅広い患者さんのニーズならびにますます高まるジェネリック医薬品の重要性に対応するため、テバ社との合併会社を2016年4月に設立し、長期収載品を移管しました。

米国 +12.4%*

US ビジネスユニットでは、海外の最大市場である米国において、新製品である「エンティピオ」、「トリンテリックス」**に注力するとともに、他のコアブランドの成長も図ります。また、製品価値を正しく提供していくため、患者さん、保険者および医療機関のニーズに応えることのできる販売アプローチを採り、成長していきます。当ユニットでは、より集中的かつ機動的な運営を可能とするため、「エンティピオ」に関わる事業を管理するスペシャリティ ビジネスユニット、中枢神経系疾患、消化器系疾患、痛風、糖尿病関連の製品ポートフォリオを管理するジェネラル メディシン ユニートを新たに設置しました。

70以上
タケダが販売会社を有する国・地域の数

30,000人以上
世界のタケダ従業員数

グローバル オンコロジー
タケダは、革新的な医薬品を研究、開発し、世界中のがん患者さんにお届けすることで、がんの治癒を目指しています。革新的で急速に拡大しているパイプラインと販売製品を多数有しており、グローバルでの売上高は3,000億円に達しています。製品は、ホジキンリンパ腫・全身性未分化大細胞リンパ腫治療剤「アドセトリス」、直腸結腸がん治療剤「ベクティビックス」、前立腺がん治療剤「リユープリン」、骨肉腫治療剤「メパクト」、多発性骨髄腫・マンデル細胞リンパ腫治療剤「ベルケイド」ならびに「ニンラー口」など多岐にわたります。タケダは、イミュノジェン社、メルサナ・セラピューティクス社ならびにシアトルジェネティクス社などのパートナーシップにより抗体薬物複合体技術を強化していくとともに、世界中のトップクラスの研究機関や学術機関との戦略的パートナーシップを通じて、イノベーションの機会を外部から取り込むことで、さらに多くの世界中の患者さんに、画期的な新薬をお届けしていきます。

グローバル ワクチン
タケダは、世界の公衆衛生における最も重要な課題に対応するワクチンの開発、販売に取り組んでいます。現在、世界中で毎年10億人がデング熱、ノロウイルスに感染しているなか、これら感染症を予防する2つの有望なワクチンを開発後期段階に有しています。また、日本においてHibワクチンや水痘ワクチンなどの新製品を発売するとともに、製品ポートフォリオ拡充のため他社との提携も行うなど、ワクチンビジネスのさらなる拡充も図っています。製造拠点である光工場は、最先端のワクチン製造施設を有しており、今後、先進国・途上国に関わらず世界中の国々にタケダのワクチンを供給できるよう準備を進めています。

Sustainable Development Goals

持続可能な開発目標

「持続可能な開発目標 (SDGs)」に向けてのパートナーシップ

タケダのCorporate Social Responsibility (CSR) とは患者さんを第一に考えることです。

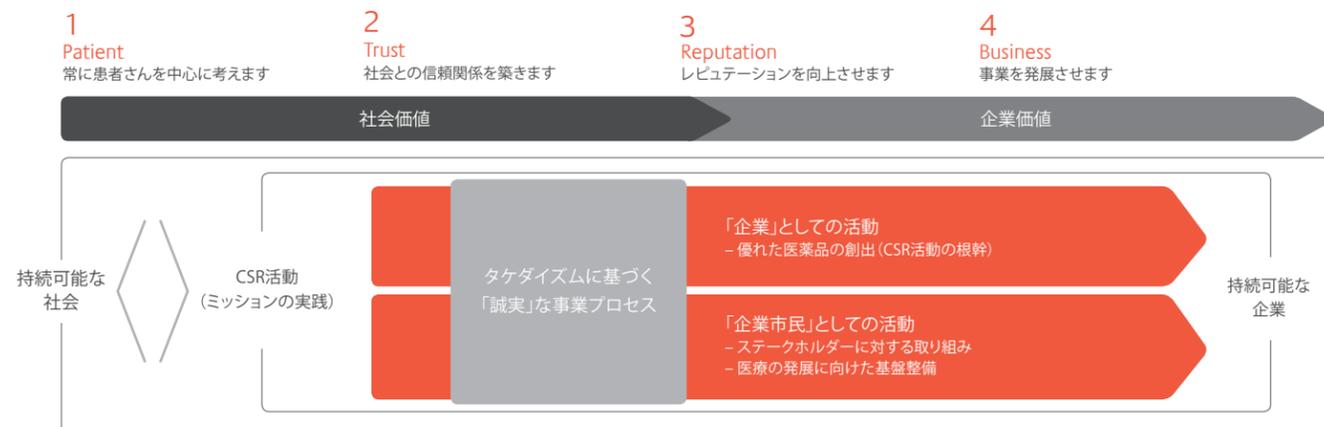
CSRの基本的な考え方

タケダは、優れた医薬品を創出する「医薬事業」を通じて患者さん (Patient) に貢献することがCSRの根幹であると考えています。その上で、「事業プロセス」全体の健全性の維持・向上に努め、また、「企業市民」として、社会の持続可能性を高める活動に関わることで、社会との深い信頼関係 (Trust) を築いてタケダの評価 (Reputation) を高め、さらなる「医薬事業」 (Business) の成長へとつなげる、CSRによる価値創造・保全モデルを実践しています。具体的な活動の推進にあたっては、国連グローバル・コンパクトの10原則などの国際的な規範や、「持続可能な開発目標 (SDGs)」などの国際的な長期目標を参照しています。

「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に向けて

2015年9月に国連総会で「持続可能な開発目標 (SDGs)」が採択され、人間、地球および繁栄のための行動計画の概要が示されました。貧困撲滅と、地球の未来のために、すべてのステークホルダーは協働

し、この計画を実行することが期待されています。タケダは、CSR戦略を実践するにあたり、SDGsの中でも、「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」という「目標3」に向けた取り組みを重視し、人々の健康と医療の未来に貢献します。タケダは、過去10年間にわたり、NPO、NGO、CSR推進団体とのグローバルな連携や協働を進めてきました。その結果、SDGsの17目標に対応する多くのプログラムが現在進行しています。



SDGsに向けたアクション・マップ

タケダは、国連グローバル・コンパクトのLEADプログラム参加メンバーとして、「ヘルスケア/ライフサイエンス産業向けSDGs マトリクス」に基づき、「SDGsに向けたアクション・マップ」を作成しました。企業市民プログラムについては、国際コミュニティからの要請に対応するため、「途上国・新興国の人々の健康に貢献する予防活動」を中期的な戦略領域として設定しています。



人々の健康

- ・医薬品ビジネス (治療薬およびワクチン)
- ・途上国・新興国を中心とする、予防にフォーカスしたパートナーシップ・プログラム
 - 子どもたちへのワクチン接種・啓発
 - 母子保健
- ・環境保全活動



貧困の撲滅

- ・三大感染症 (HIV/AIDS, 結核, マラリア) に対する保健医療人材の育成支援プログラム (グローバルファンド)



飢餓の解消

- ・少数民族の母子を対象にした保健支援 (セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)



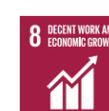
教育

- ・医療従事者向けの糖尿病e-learning プログラム (プロジェクト・ホープ)



ジェンダー平等

- ・地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム (ワールド・ビジョン)



働きがい・働きやすさ

- ・途上国・新興国の女性労働者の保健医療環境支援 (BSR)



イノベーション

- ・ポリオ根絶を目指した事業提携 (ビル&メリンダ・ゲイツ財団)
- ・子どもたちへのグローバル「はしかワクチン」プログラム (国連財団)



不平等の解消

- ・デジタル出生登録プログラム (プラン・インターナショナル・ジャパン)



気候変動対応

- ・ケアリング・フォー・クライメイト (UNGC/UNEP)



制度構築

- ・グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund)



その他の目標

- ・強靱な社会を目指した自然災害への対応 (JVOAD)
- ・グローバル・リレー・フォー・ライフ (アメリカ対がん協会)
- ・生物多様性の保全に向けた取り組み (京都薬用植物園)

SDG 7: Affordable and Clean Energy

- ・クリーンエネルギー



SDG 14: Life Below Water

- ・海洋資源の持続可能な利用



SDG 11: Sustainable Cities and Communities

- ・持続可能な都市とコミュニティ



パートナーシップ

- 国際連合
- 保健関係省庁
- 世界保健機関
- 業界団体

- グローバルファンド
- グローバルヘルス技術振興基金
- ビル&メリンダ・ゲイツ財団
- 国連財団

- 国連GC LEADプログラム
- BSR
- CSRヨーロッパ
- CSRアジア

- アメリカ対がん協会
- プラン・インターナショナル・ジャパン
- プロジェクト・ホープ
- セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
- ワールド・ビジョン



【製品情報に関する注意事項】

本会社案内には、武田薬品の製品についての情報が含まれていますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではなく、また国によって異なる商標、効能、用量などで販売されている場合があります。また、本会社案内に記載されている医薬品（開発品を含む）の情報は、そのような製品を宣伝・広告するものではありません。会社案内に記載されている製品に関する情報は、医学的アドバイスの提供を目的とするものではなく、決して、医師その他医療従事者によるアドバイスの代わりになるものではありません。

「アリナミン/Alinamin」、「アジルバ/Azilva」、「エンティビオ/Entyvio」、「ロトリガ/Lotriga」、「ルプロン/Lupron」、「メパクト/Mepact」、「ニンラーロ/Ninlaro」、「タケキャブ/Takecab」および「ベルケイド/Velcade」は、武田薬品工業株式会社またはその子会社の日本およびその他の国における商標または商標登録です。「アドセトリス/Adcetris」は、Seattle Genetics, Inc.の米国およびカナダにおける登録商標です。「トリンテリックス/Trintellix」は、H. Lundbeck A/Sのデンマークおよびその他の国における商標または商標登録です。「ベクティビックス/Vectibix」は、Immunex Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

千羽鶴について

日本古来の言い伝えでは、鶴は千年生きると言われ、希望と幸せの象徴とされてきました。

折紙で千羽の鶴を折ると願いが叶うという「千羽鶴」には、幸運や長寿、そして病気からの回復など、人々の切なる願いが込められます。

ドンさんの友人と家族によって折られたこの折り鶴は、日本にお住まいのお姉さんからドンさんに贈られました。

ドン・クレイトンさん — 2008年に多発性骨髄腫と診断された患者さん。
家具メーカーの副社長を定年退職。サッカーファンであり、
マンチェスター・ユナイテッドの熱心なサポーター。

タケダは、235年の歴史と伝統を胸に、
これからも、果たすべき使命に向かって
ひたむきに歩んでいきます：

たったひとつの「いのち」が紡ぐ、
たったひとつの人生のものがたりに、
もっと健やかで、明るい未来を。

Better Health, Brighter Future

www.takeda.co.jp

2016年8月現在
武田薬品工業株式会社
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号

武田薬品工業株式会社

